

第3学年1組 国語科 学習指導案

平成22年10月20日（水）5校時

場所 3年教室
 授業者 T1 吉田 美穂（担任）
 T2 植田 さゆり（司書教諭）
 T3 青木 佳美（にこにこサポートティーチャー）
 支援者 大達 明子（学校司書）

1 単元名 世界の民話を楽しもう 木かげにごろり

2 単元の目標

- 世界の民話に興味をもって読んだり紹介したりすることができる。 （関心・意欲・態度）
- 世界の民話を読み、紹介したい本を取り上げて、そのおもしろさが伝わるように説明することができる。 （読むこと）
- 友達の感想を聞くことによって、民話のおもしろさを読み取ることができる。 （読むこと）
- 登場人物を比較することで、適切な言葉を使って表すことに気付くことができる。
（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

3 学習の基盤

○ 本単元は、国語科新学習指導要領の

「C 読むこと」(2) ①内容
 (1) ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。
 エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。
 カ 目的に応じて、いろいろな本や文章を読むこと

を受けて、単元設定するものとする。
 また、以下のことも記されているので大切にしていきたい。

C 読むこと (2) ②言語活動例
 ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと
 エ 紹介したい本を取り上げて説明すること

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
 (1) イ 言葉の特徴やきまりに関する事項
 言葉の働きや特徴に関する事項
 (ア) 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。

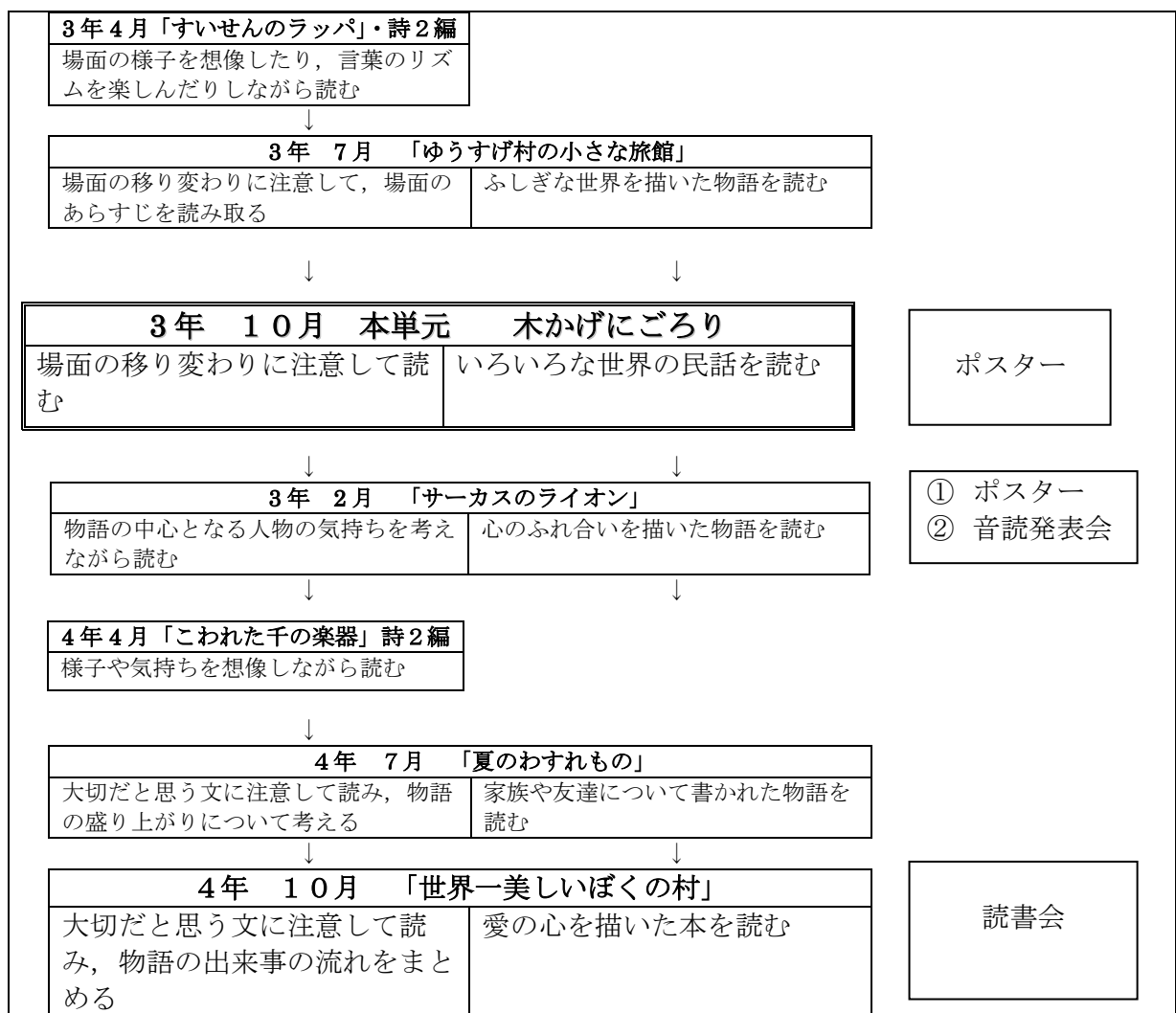
この民話には、お百姓たちが地主に知恵を働かせてたくましく立ち向かう痛快なおもしろさがある。また、木かげがのびるごとに繰り返されていく地主とお百姓たちとの繰り返し行われる問答のおもしろさや、木かげがのびるごとに地主は自分の立場が悪くなっていくが、お百姓たちとの約束を守っていくおもしろさなど、民話独特のおもしろさが盛り込まれている。

本単元では、朝鮮半島に伝わる民話をきっかけとして、いろいろな世界の民話や昔話を読み、読書の幅を広げると共に、世界へ目を向けさせる機会としたい。

ここでは、民話のおもしろさを友達に伝えることを目標とし、本の内容をとらえ、あらすじにまとめる活動を重点に行っていく。紹介し合うことを通して、さらに読書への意欲を高めていくことができると思う。

学習の系統は、以下のようになっている。（下図参照）

読解	読書	学習方法
2年 10月 「名前を見てちょうだい」 出てくる「人物」がどんなことをしたかに気をつけて読む		音読クイズ／ 「読書ゆうびん」
2年 2月 「かさこじぞう」 様子を想像しながら読み、昔話のおもしろさを味わう		
↓		① 音読劇 ② 紙芝居
↓		



○ 本学級の児童は，男子18名，女子18名，計36名の学級である。3年生になり，自分たちの思いが出てきて，ぶつかることも増えてきた。その中で，自分たちで何とかしようと解決する場面も多々見られる。2学期になり，1クラスになったことに慣れてきた様子も感じられる。学習全般を通して，意欲的に取り組んでいる。学習面では，学力差が見られる。一斉学習での学習が難しく，国語の時間のみ，あすなる学級へ通級している児童1名，週2時間にここサポートティーチャーによる支援を受けている児童が3名いる（算数科では4名）。ペア学習，グループ学習などを取り入れることにより，学習や生活で助けとしている場面が多く，そのことで学習を楽しんでいる。本単元では，あすなる学級通級児童も一緒に学習に取り組んでいく。

児童は，今までにも，どこの国の話とは意識せずに，いろいろな国の民話や昔話を读んだり聞いたりしてきている。3年生になり，ローマ字学習を始め，学習や生活の範囲も広がり，日本以外のことにも興味・関心をもってきている時期である。

国語に関する事前アンケートをした結果は，以下の通りであった。

質問項目	はい	いいえ
国語の学習が好きですか。	31名	5名
お話を読んで，どんな内容か分かりますか。	27名	9名
お話（文章）を読むのは得意ですか。	10名	26名
感想や文章を書くことは好きですか。	23名	13名
自分で本を選ぶことはできますか。	24名	12名
本を読むことは好きですか。	29名	7名

国語の学習が好きと答える児童は多いものの，お話を自分で読むことは苦手と答える児童が約7割いた。読み取りの難しい児童や支援が必要な児童が数名いる。学習中，またテストなどの様子を見ても，文章を読み取ることに，少し抵抗を感じている児童が多いので課題だと感じている。これまでの国語の学習状況から，さし絵を手がかりにして様子を読み取る児童が多く，言葉に着目して読み取っていく児童は約半数であるといえる。読むページを限定するなどの支援をすると，言葉に着目して読み取ることができる児童は約7割である。また，ほとんどの児童は，友達の感想や意見をきいて，読み取りを深めることができる。

一斉指導で，図書室へ本を借りに行った際，本を選ぶことができにくい児童が数名いる。すぐに

選ぶ児童の中にも、適当に選んでいるという児童もいる。時間がかかる児童の中には、気になる本の中を少し読んでじっくり決める児童、読みたい本がたくさんあって悩む児童、何を読みたいか分からない児童と理由は様々である。世界の民話を選ぶ際、一緒に内容を見るなどして自分で選べるようにしたい。

- 児童は、今までに、いろいろな国の話を読んだり聞いたりしたことはあるが、国に着目して読んだことはあまりないと思われる。この学習をきっかけに、各国の昔話や民話を読んで、国は違っても思いや願いは共通するものがあることに気づくかもしれない。民話のおもしろさに浸ることができるように読書に十分な時間を確保したい。

第一次では、この単元の見通しを立てる。ここで、日本以外にたくさんの国があるということにも触れておきたい。また、ブックトークにより、事前に世界の民話や昔話について紹介し、授業以外にも本を読むよう声をかけ、十分な時間を取り、親しませるようにしたい。

第二次では、朝鮮半島の民話「木かげにごろり」を地主とお百姓たちの人物像を中心に、両者の関係に着目しながら、場面の移り変わりを読み取っていく。そして、友達に分かるように、話のあらすじをまとめ、紹介しあう。読むことについては、個人差があるため、理解するまでにかかる時間が異なる。そのため、挿絵を参考にしたり、文をつなげるための言葉をヒントとして出したりし、個別に支援を行っていききたい。司書教諭にも入ってもらえる時間をとり、TTで学習を進める。それから、いろいろな世界の民話を読みたいと思えるように、本教材の読み取りを全体で行っていく。友達に伝えたい、紹介することは楽しいという気持ちになり、どの児童も楽しく読み取りの活動を行えるようにするため、クイズを取り入れての紹介をさせたい。気持ちを高め、第三次の学習へとつなげていきたい。

第三次では、いろいろな国の民話や昔話に興味・関心をもち、本を読む。その中から、選んだ本を友達に紹介できるように、紹介文（あらすじとおすすめ文）にまとめて本の帯を作り、発表会を開く。本の帯は、この単元学習が終わった後、図書室で活用してもらい、他の学年へも紹介されることを知り、帯作りへの意欲を高め、伝えたいという気持ちを高められるようにしたい。作り方を知らするために、「木かげにごろり」の本の帯を実際に作り、次の活動へと意欲を高めたい。個人での活動となるので、本選びから、本の内容の読み取り、あらすじをとらえるところなど様々な場面で、差が出てくると考える。担任だけでなく、司書教諭、にこにこサポートティーチャー、学校司書も子どもたちの支援を行い、個に応じた活動ができるようにしたい。

本時では、自分が選んだ本についての紹介文を書き始める活動である。あらすじをまとめる方法をヒントカードとして用意しておき、役割を分担し、支援を行いたい。

評価規準

関心・意欲・態度	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
世界の民話に興味をもち、読もうとしたり、紹介したりしようとしている。	登場人物の心情や行動をとらえ、民話のおもしろさを感じ取っている。 紹介する民話の内容を読み取り、おもしろさが伝わるように、物語のあらすじをまとめている。	言葉から登場人物の性格や関係が変わったことに気付いている。

4 指導計画及び評価計画（全13時間）

次	時	学習活動	評価計画	関	読	特
一	1	「木かげにごろり」を聞き、学習の見通しをもつ。	世界のお話に関心を持ち、教材文を読もうとしている。	○		
			新出漢字や分からない言葉の確認をしている。			○
	2	教材文を読み、おもしろかったところとそのわけを考える。	教材文のおもしろかったところを見つけ、そのわけを考えようとしている。	○		
二	1・2	なぜ、地主とお百姓の関係が変わったのか、理由を読み取る。	時・場所・行動・会話などに着目して、地主とお百姓の様子を読み取っている。		○	
			時・場所・行動・会話などに着目して、地主とお百姓の様子が変わっていく理由を明確にしている。		○	
	3・4・5	あらすじにまとめ、発表しあう。	あらすじが分かるようにまとめている。		○	
			情報取り入れクイズや理由づけクイズで、内容の読み取りを深めようとしている。		○	○
			意見交換や感想を通して、共通点や相違点を比べたりしている。		○	
	1・2	いろいろな国や地域の本（民話）に興味・関心をもって読む。	世界のいろいろな国や地域の民話から、自分が紹介する本を決めている。	○		
本の帯について、作り方を知る。			本の帯の作り方を知り、作ろうとしている。			○
3・4・5 (本時)	読んだ本の中から、紹介する本を選び、紹介する内容を決めて、あらすじと感想を入れて、本の帯を作る。	話のおもしろさや心に残ったことが伝わるように、あらすじが分かるようにまとめている。		○		
		民話や昔話の中の言葉に着目して考えようとしている。			○	
6	発表会を開き、感想を伝え合う。	そのおもしろさが伝わるように発表したり、友達の発表のよさを見つけようとしながら聞いたりしている。		○		

関：国語への関心・意欲・態度　読：読むこと　特：伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

5 本時の学習

(1) ねらい

- ・選んだ民話の帯作りを通して、あらすじをまとめることができる。(読むこと)

(2) 展開 (本時 10 / 13)

時間(分)	学習活動	支援	評価規準・評価方法
つかむ 5分	1. 本時の学習について知る。 ・選んだ本の話のあらすじをまとめていく。	・まとめ方を確認できるよう、学習の説明をする。前時に作った本の帯の見本を見せる。(担任)	
ひろげる ふかめる 32分	2. 本の紹介文をまとめていく。 ・個人で活動する。 ・あらすじをまとめる ・おすすめ文をまとめる。 ・終わった人は、本の帯作りに取りかかる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 選んだ本のおもしろさがみんなに伝わる本の帯を作れるように、まとめていきましょう。 </div> ・文章を読むことが難しい児童には、一緒に本を読み進めたり、挿絵を見たりできるよう、声をかける。(学校司書・司書教諭・担任・にこにこサポートティーチャー) ・本の内容を読み取っていく際、まとめ方が分かるよう、ワークシートを用意しておく。(担任・司書教諭) ・あらすじのまとめ方が分からない児童には、ワークシートに沿いながら、どんな内容か分かるよう、もう一度読み聞かせをしたり、どんな話だったか聞いたりしながら確かめていく。(にこにこサポートティーチャー・学校司書) ・どのようにまとめていったらよいか分かるよう、まとめ方のヒントカードなどを準備しておく。(司書教諭・担任・にこにこサポートティーチャー) ・直しがある児童が、どのように直したらよいか分かり進められるよう、支援する。(司書教諭・にこにこサポートティーチャー) ・ワークシートを確認し、早く終わった児童は、帯作りを進められるよう、助言する。(担任)	●話のおもしろさや心に残ったことが伝わるように、紹介文を考えることができる。(ワークシート・様子)
クール ダウン 8分	3. 自分の活動について振り返り、次時の学習の見通しをもつ。 ・ワークシートに書く。 ・感想発表		

(3) 評価規準

十分満足と判断される児童の姿の具体例	自分が選んだ民話の内容を読み取り、理由・根拠を明確にしたあらすじが分かるようにまとめることができる。
おおむね満足と判断される児童の姿の具体例	自分が選んだ民話の内容を読み取り、あらすじが分かるようにまとめることができる。
努力を要すると判断される児童の姿の具体例	本の内容を読み取ることが難しい児童は、一緒に文や挿絵を見たり、どんな話か聞いたりするなど支援する。 まとめ方が分からない児童には、挿絵を見たり、聞いたりして書かせる。

(4) 研究の視点

- ・紹介文をまとめる手立てとして、本の帯やワークシートは、有効であったか。